



オトナのふるさと学習

令和元年  
6月号



# 月刊このへんだいすき

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶  
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ  
ずっと「このへん」なあなたも、最近「このへん」なあなたも、  
読めばたちまち、「このへんだいすき」に



## 「このへん」はむかし巨大湖の底。 いまも残る不思議な伝説と、 干拓して平野にしたメンバーが 「まんが日本昔ばなし」な展開。

巨大な  
湖の底

どれくらい昔かわからないほどの昔、秋田県南は「鳥の海」という一面の広大な湖の底に沈んでいて、その湖は海まで続いていたという話がある。

不思議な  
伝説

出羽国といわれた当時、南には上浦、北は北浦という郡があった。海でもないのに入江や波打ち際をいう「浦」の字が付くのも不思議なことの1つ。

干拓して  
平野にした

広い湖の水を海に流してイネを植え、今でいう干拓事業を行ったことで、大規模なコメ作りが始まったという「このへん」のなりたちを語る伝説。

旅をしてきた兄弟の神様が、海まで続く巨大な湖のほとりにたどり着きました。  
湖の土手を壊して水を流し、干拓して平野にしようと考えて村人有志と工事にかかります。一行に協力を申し出たのは、ダイダラボッチという超人。実は大平山三吉神社の神様で、盆地の両端に足をつけて立つと、男のモノがぶら下がった地点が佐加里という地名になったとか。いくら飲んでも酒が減らない盃を差入れてくれたおばあさんは、雄和女米木の竜神の化身でした。土地の神様、つまり有力者も、こそつてこの工事に協力したということなんですよ。  
もしか、「まんが日本昔ばなし」の題材になるのではと思ったら、「鳥の海の開拓」のタイトルで、実際にオンエアされました。無事あらわれた平野にイネを植えることを教えた神様が、長者と呼ばれる地域のリーダーの祖先として語り継がれます。コメ作りのはじまりを伝えたあまりにスケールの大きな伝説といえるのかもしれませんが。

POINT

巨大な「鳥の海」の底に沈んでいた「このへん」は、干拓で平野に。神と人間が協力した大工事は、大規模なコメ作りの始まりを伝える。

